

平成25年度第5回市民活動団体支援制度審査会

開催日時 平成26年1月15日(水) 午前10時から

開催場所 市役所402会議室

出席者

(委員) 中川委員、仲川委員、宮西委員、谷野委員、上田委員、中田委員

(事務局) 杉浦市民活動推進課長、坂谷市民活動推進センター所長、金子市民活動推進係長、
竹森市民活動推進センター係員

案件1. 補助金交付確定にかかる事業報告書審査

(最初に事務局より事業報告概要説明)

団体番号1 いこままプラス

事業名 いこままプラス♪vol.3 ～祭～

【事務局】 7月15日にたけまるホール大ホールで実施をされました。今回の事業では、特に参加型を意識し、指揮者体験コーナーでは観客席から子どもが舞台上がり、指揮をする機会を設けたり、8月に開催されるどんどこまつりで園児が踊っている「ふれあいONDO」を演奏曲に入れ、子どもたちが観客席で踊ったりという工夫をされました。

決算では、託児希望者が少なかったり、受付スタッフが無償で引き受けられたりし、賃金が3万4,200円の減、印刷製本費は必要なものを精査し、7万3,086円の減額となりました。

この団体は、昨年度は今回よりも事業規模の小さい事業を提案され、昨年度の交付金額が10万3,229円となっています。この額の支援を受けることの大変さを昨年度も感じた経験から、実際には支援対象の届出期間に実施された事業ではありますが、経費の削減に努められて、事業精算額は予算額より21万2,234円減の59万9,566円。支援金額21万9,504円となっています。

750名の来場がありましたが、実際には子どもの数が非常に多く、支援の受付期間にも大人からなかなか支援が得られないということを知っていました。なので、来場者は750名でしたが、市民の選択の届け出が311名という結果になっているのではないかと思います。

団体番号4 生駒市民劇団「シアター生駒」

事業名 ファミリー劇場『ヘンゼルとグレーテル』

【事務局】 10月19、20日に南コミュニティセンターせせらぎホールでファミリーを対象とした演劇を実施されました。開演に向けて、子どもを対象に無料の演劇ワークショップを開催し、広報紙などで公募した子どもたち11人がこのワークショップを経て当日の舞台にも出演いたしました。

交付決定額が支援金希望額50万円に達しなかったことから、賃金で計上していた受付・客席係を団員の家族が無償で担ったり、照明、映像の業務を委託予定であったものを団員で補うなどして、20万3,671円の削減を図られました。結果、総事業費は、当初予算額より33万7,797円減の77万4,803円となり、支援金額は交付決定額どおり31万4,840円となっています。

こちらの団体は、当初の予定では、事業収入としてチケット売り上げが大人400人、子どもが300人と計上していましたが、結果として、大人の入場者、チケット購入者が342名、子どもが99名となっています。子どもの数が少なかった原因の1つとしては、シアター生駒のファン層自体が大人の方

がに多く、昨年は『夫婦レコード』という大人を対象とした演目に対して278人が参加しておられます。日ごろからニュースレターを送付するなど、ファンクラブの方々が大人だったということもあり、また、1人の子どもに対して複数の大人の方が参加されたという状況で子どもの人数が少なかったのかと思われます。

団体番号5番 生駒市スカウト連絡協議会

事業名 ふれあいハイキング IN 生駒山麓

【事務局】 9月8日にハイキングを中心としたプログラムを実施されました。前日から当日の朝まで雨が降り続いていたためか、スカウト以外の参加者は34人と、スカウトメンバーの124人に比べて大変少ない結果となりました。団体としては、参加しやすいように事前申し込み不要としていたことが1つの要因と考えています。今後は事前の申し込みを確保するなど、当日の一般参加者の増に向けて事業計画を立てていただくよう伝えていきたいと思っています。

プログラム内容を詰めていく中で、原材料の増額及びキャンプ場の使用料として賃借料で2万4,150円の増額がありました。印刷製本費では、ポスターを作成せず、チラシのみとするなどして2万2,550円の減により、結果、総事業費は当初予算額より3,019円増額の8万3,019円となり、支援金額は交付決定額どおり4万円となっています。

団体番号6 アトリエくじらのクー

事業名 ハンディキャップを持つ子供のワークショップ

【事務局】 8月10日、11日に花のまちづくりセンターふろーらむにてワークショップを行い、8月13日から25日まで同所にて作品展を実施されました。当初、事業スケジュールにありましたワークショップ終了後のディスカッションについては、交流会として実施したと報告を受けています。

この団体は、他の地域での活動実績は十分ありますが、生駒市では昨年度から活動を始められたばかりです。報告書にもありますように、生駒市民の参加は少なかったのですが、この事業実施を通じて、主に知的障がいのある人の支援を行う生駒市の事業所のかざぐるまとのネットワークが生まれるなど、今後の団体の活動につながっていることが評価できると思います。

参加人数は定員の20名を超え、31名となり、それに伴い、消耗品費や作品展後の作品返送の郵送料である通信運搬費が増額となっています。

なお、保険料ですが、当初予算額は年間を通じたボランティア保険として、300円の10人を計上して3,000円としてましたが、再度、保険の内容を見直され、行事保険として単価が28円のものとし、参加申込者、スタッフの40名分の1,120円となっています。

総事業費は当初予算額より3万6,789円増額の9万6,789円、支援金額は交付決定額どおり3万円となっています。

団体番号8 生駒市レクリエーション協会

事業名 音楽会「午後のミニコンサート」

【事務局】 本年度初めて支援対象登録団体となった団体です。

10月21日に南コミュニティセンター小ホールで実施されました。99名の参加がありました。

プロではないアマチュアの演奏家3名を招き、さらに、出演を希望された市民の方4名も同じ舞台上がって演奏や演奏家の演奏補助をされたということです。昨年までは団体の自主事業として実施され、

本年度初めてマイサポいこまにエントリーされ、団体からは、マイサポいこまにエントリーすることによって広報媒体が増え、広く市民の皆さんに知ってもらえたとの感想をいただいています。

経費としては、当初、観客のボランティア保険を計上してましたが、再度、団体内で協議され、保険は掛けないということで未執行となっています。結果、総事業費は、当初予算額より7,860円減額の5万1,640円、支援金額は交付決定額より3,930円減額の2万5,820円となっています。

団体番号10 生駒フットボールクラブ

事業名 生駒FCスポーツ少年団地域交流大会

【事務局】 7月20日に小学校のグラウンドにて公式試合の対象年齢以下である小学生1、2年生を対象としたサッカーの交流試合を実施されました。昨年度からの検討事項である、チームに属していない子どもの参加については、課題に記載しておられますように、保険加入状況や安全面の配慮から、引き続き検討としています。マイサポいこま事業にエントリーすることによって団体のPRができ、結果、チームに属するメンバーが増え、子どもたちがスポーツに触れる機会を増やし、青少年の健全育成につなげたいとの意見をいただいています。

経費については、有料の会議室を使用しなかったことによる使用料及び賃借料の未執行などにより、総事業費は当初予算額より6,854円減額の11万7,146円、支援金額は交付決定額より1,699円減額の4万301円となっています。

団体番号11 グリーンボランティア「いこま宝の里」

事業名 “森と遊ぼう” 里山体験イベント

【事務局】 12月7日にイモ山公園にて実施されました。参加者は延べ165人となり、昨年度から65名増えています。1日を使つての事業でしたが、お昼御飯を全く食べずに帰られたメンバーがいたり、お昼御飯の豚汁や焼きイモが終わってから、午後から来られたメンバーもいたということで、参加者の年齢や参加時間などの状況により参加費の徴収は100人となっています。なお、保険料の120名については、事前に申し込みのあった参加者とスタッフ分との報告を受けています。

支出については、申し込み人数の増加及び雨天対応のため、椅子の数を増やしたり、テントのサイズを大きくしたり、ブルーシートを追加するなどし、委託料が1万6,030円の増額となっています。総事業費は、当初予算額より1万5,231円増額の13万7,231円となり、支援金額は交付決定額と同額の6万1,000円となっています。

団体番号12 生駒市グラウンド・ゴルフ協会

事業名 第3回市民交流グラウンド・ゴルフ協会

【事務局】 11月13日に総合運動公園で実施されました。昨年より36人多い409人の参加がありました。会員ではない一般参加者が昨年よりも40人増えています。

決算では支援対象経費にならない分ですが、報償費が1万6,000円の減額となっています。消耗品費では、参加人数増によりスタートマットなどの追加購入をし、1万9,155円の増加。総事業費は、当初予算額より3,594円増額の28万5,594円となり、支援金額は交付決定額と同額の12万6,000円となっています。

団体番号13番 高山盆まつり実行委員会

事業名：高山盆まつり

【事務局】 8月14日に実施されました。経費は、少しずつ削減をされ、総事業費は当初予算額より12万7,326円減額の238万7,674円となり、支援金額は交付決定額と同額の50万円となっています。

団体番号18番 M's Sound Factory

事業名 M's Sound Factory ポップスコンサートvol. 7

【事務局】 11月3日に北コミュニティセンターのホールで実施をされました。

経費面では、報償費に計上していた講師謝礼は、当日、講師の都合がつかなくなり、未執行となっています。総事業費は、当初予算額より5万2,786円減額の27万4,444円となり、支援金額は交付決定額と同額の7万584円となっています。

団体番号19番 生駒少年少女合唱団

事業名 老人介護施設への慰問コンサートや生駒市内ホールでのふれあいコンサート

【事務局】 2カ所の高齢者施設での慰問コンサートと2回の市内ホールでのコンサートを実施されました。

交付決定額が当初予算より16万3,742円の減となったため、消耗品の支出を16万5,788円削減されました。削減内容としては、小道具材料費、予算15万円を計上してましたが、2万8,702円の支出となっています。同じく事務用品、予算額2万円でしたが、1,680円の支出にとどめておられます。削減分については、団員の持ち寄りなどで補ったとの報告をいただいています。

団体番号21番 生駒ロータリークラブ

事業名 宝山寺参道 新たなにぎわい活性化プロジェクト。

【事務局】 9月23日、生駒聖天お彼岸万燈会開催にあわせて、行灯やカップろうそくを置くとともに、スタンプラリーや写真コンテストの撮影を実施されました。写真コンテストについては、10月に賞を決定されてます。報償費は、写真コンテストの応募者が3名と少なかったため、賞品の経費が減額となっています。食料費は、当初、参詣者への飲み物として計上してましたが、実際には参詣者への飲み物提供はせず、スタッフの飲み物費として支出をしますので、支援対象経費からも省き、かつ、3万7,030円の減となっています。印刷製本費では、屋外の掲示にもたえられるよう、紙の質を上げ、枚数を倍にしたため、12万7,719円の増額。委託料では、ろうそくの数を当初計画1,000個から2,000個に増やしたため、11万3,750円の増額となっています。

なお、この団体の決算書ですが、ロータリー補助金の手続きに領収書原本を使用するため、領収書原本なしと報告をいただきました。本来でしたら、領収書の原本を確認することによって支援対象経費を計上するということとなりますが、原本自体の提出がなかったため、補助金の交付対象外となるものがあります。

団体番号26 福祉団体「生駒希望の会」

事業名 第12回健康講座。

【事務局】 こちらの団体は2カ月に1回、健康講座を実施していますが、外部から音楽療法士を招いての講座は年に1回でこの回のみの実施となっています。7月7日に福祉センターにて実施されました。

事業実施に際し、広く公募をして実施され、今回は会員も含めて34人の参加となっています。参加者の体調、障がいの状況によりさまざまな楽器を準備されています。

総事業費は当初予算額より4,897円増額の10万4,897円となり、支援額は交付決定額と同額の4万5,000円となっています。

消耗品として楽器を購入してありますが、年間を通じて合計6回の健康講座をやっておられ、残りの5回については、メンバーが相互で中心となって障がいがある方との音楽プログラムをされますが、その際にもこの楽器は使っていくとの報告をいただいています。

以上が13団体分についての説明です。

【中川会長】 ありがとうございます。御説明いただいたことで御質問がございましたらいただきたいと思えます。

【上田委員】 団体番号19番の少年少女合唱団ですが、保険料で通年のスポーツ保険に入っておられ、それはいいかと思いますが、今回の助成事業がここの活動の全てなのかということではないと思えます。団体活動の方が多くて、幾つかに事業が分かれている場合については、県の場合では按分しています。例えば2つの事業があるのであれば2分の1ずつするとか、あるいは、活動費を掛けて、この事業に対する保険料として見るとかというようにしています。というのは、活動全てをここで対象経費に向けるというのはどうもひっかかりがあるかと。検討をしていただければと思います。

それから、団体番号21生駒ロータリークラブの場合は、領収書の原本提示がなかったということですが、15%程度しか支援対象経費にならないというような事業が存在することが助成事業として妥当なのかと感じ、支援対象経費外ばかりの事業を認めているのと結果的に同じような形になっているので、団体には、助成事業であるからには補助対象経費の分について申請されたものについてはきちんと領収書の提示を受けて、補助対象の経費として計上してもらうというのを考えていけばいいのかという気がしました。

【事務局】 この制度では、支援対象となる事業の計画と予算は出していただいています、年間事業計画や年間の団体会計は提出いただいていませんので、年間の団体全体事業のうち、マイサポ事業は何%にあたるかは、算出できていません。ですので、保険料も、全体の活動日数が幾らでということの把握はできていない状況です

【上田委員】 団体構成にかける年間の保険料であれば、マイサポ事業以外の事業でも適応されることとなります。その分が、いわゆる助成金の額にはね返ってきます。特に800円という高額な保険なので、人数分をかけるとも4万1,800円です。もっと小さな事業であればかなりの部分を占めてきますので、通年活動で入っている保険を1つの助成事業の中で全部見ましようというのはどうかなという気がしますね

【中川会長】 この場合は、対象経費の中から減額したとしても決定額については影響しませんね。ただ、影響するケースが出てくるかも知れませんので、今後、検討が必要です。

【宮西委員】 団体番号8番生駒市レクリエーション協会ですが、今後の課題として、入場無料で開催しているため団体の負担があり、公共の会場費を全額補助してもらえないかと記載されていますが、本来は受益者負担で入場料を徴収するべきだと考えます。団体番号12番のグラウンド・ゴルフ協会の今後の方向性で、会場に來られない人の移動手段を考えていきたいと書いているので、どのように検討されるのかというのを期待したいところです。

【中川会長】 移動手段というのは気になりますが、マイクロバスを使うのか、会員のマイカーで乗り

合わせして行きましょうというのか、方法はいろいろあるでしょうね。

【事務局】 マイカーの検討をされていますが、万が一何かあったときにどうするかということで、なかなかお話が進まないと言っています。

【中川会長】 それから、会場費ぐらいは市が持ってくださいという考え方についてはいかがなものでしょうか。

【上田委員】 昨年度も市の施設を優先的にとらせてくださいという内容があり、それはおかしいという結論になりました。今回は減免してくださいと、さらなる要求をされているので、余計だめだと思います。

【中川会長】 ホールの維持管理にかかる経費や減価償却を考えれば、年当たりの経費は、使用料ではまかなえないぐらいお金がかかっていると思います。民間ホールを借りれば、そうした経費も使用料で徴収されます。市のホールで実施していること自体が公的助成を間接的に受けていることになると思います。

この助成金の支援を受けている団体は全部公益団体で、団体の皆さんはそういうことをおっしゃっていませんよと、どの団体も事業に公益性があるからホールを使っているわけで、それを無料にしてくださいという議論はもう終わっていますと言ってもいいのではないかと思います。この発想はなくしていったほうがいいのかと思います。

【谷野委員】 全般的に、参加人数が去年より増えていいと思いますが、今後のことも考えて、会員になってもらったりサポーターになってもらったりするための努力をどんな形でされていて、それで、何人ぐらいそういう会員さんが増えたのかも知りたいと思いました。

それと、団体番号13の高山の盆祭りの委託料が130万以上になっていますので、委託先が同じ委託先なのかとか、会員の中の事業所に関係しているのかとか、金額が大きいのでチェックが必要になってくるのかと思いました。

【中田委員】 団体番号4番生駒市民劇団「シアター生駒」ですが、当初予算より約33万7,000円減の決算額となっておりますが、事業収入は取っていて、アンケートもしていて、内容としてもいいと思います、今後も実施されるのであれば計画性も要るのかと感じました。今回のこの金額の差について具体的に団体から聞いていたら教えてほしい。

【事務局】 一番大きいのは、委託料で、本来ならば照明を借りて、リハーサルと本番が2日間ありますので、照明技師の方が3日間つくべきですが、照明を借りてきただけで、操作は団員で賄ったということでした。

同じ事業提案があった場合には前の決算額がベースとなり、次に同じ内容で提案があった場合には決算額ベースでの予算を見ていきます。この団体についても、昨年度、違うホールで実施されましたので、そのときにも委託料の決算額に差が生まれました。その点については確認をしながら予算を計上していますが、演劇の場合、委託料についてどこまでが専門的な人でないといけないのか、団員で賄えるものなのかということが、団体側の意見をのみを聞いていると、差が生じてしまいます。ただ、事務局としては、予算の段階で、これは団員で賄えますねという指導は難しく、去年に引き続き、委託費等に差額が生じています。

【上田委員】 確かに、先ほどおっしゃっていましたが、大人の方のコアのファンが多いので、舞台演出をおろそかにできないのではないかと。そのしわ寄せが、最終的に作品のクオリティにかかわってくる話なのかと思います。なかなかそこに踏み込むべきではないような気はしますが、団員のできるのであれば最初から団員でやってくださいという話にもなりかねないと思います。

【中川会長】 あくまで想像の話ですが、音響とか照明を専門家に頼むというのは一番安心ですが、値段は結構高いです。それを団員とかボランティアでやるというのは、高圧電力を使うので結構怖いです。場合によれば感電死する可能性もあるし、特に照明はやけどする可能性もある。それを団員ですますというのは、少し怖いという気もしますので、安全性には十分配慮してほしいところです。

もう1つ話が出ていた舞台制作、いわゆる演出に関するものを削るとなれば、今度は作品そのものの質が悪くなってこないかと。そういう意味で、当初の見積もりを正確に出しておかないと、節約しましたとかいう話でなく、信頼性の問題になりかねないという意見です。必要なのは必要で出したらいいのでないかと。内部努力で節約したとって、安全とか品質にかかわるものまで節約するというのは、それは別でしょうと。それでもできるのであれば初めからそれでしてくださいということだと思います。今後、うまく指導してあげてください。

【谷野委員】 アンケートをとっておられますが、アンケートにお名前と御住所があるので、「これ以外に使いません」というような表現は入れないといけないのかと思います。

【仲川副会長】 賃金は支援対象にかかる部分についてはら時給700円という規定ですが、時間の確認はされていますでしょうか。

【事務局】 確認しております。

【中川会長】 ほかないでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、これで支援金の交付額を確定させていいでしょうか。

(「はい」の声あり)

案件2.平成26年度支援対象団体募集について

事務局より来年度スケジュール及び様式変更の説明

その他

【中田委員】 市民からの選択届出率は昨年より上がり、さらに10%という目標を掲げていますがどうでしょうか。啓発は色々実施されていますが、まだまだ余地はあると思います。

【中川会長】 もっともっと市民の皆さんが選択届出してくれたら金額も上がってくるので、そのことを言えば、気づきがあるのでないかと思います。

【事務局】 この制度を導入している市同士で実務担当者会議を毎年しておりますので、情報交換等行っていきたいと考えております。

【上田委員】 選択届出金額が支援希望額を上回ったときに、上回った部分は反映されないというのはどの市も一緒なのでしょう。市民が選択しても、それが反映されないとなるとやめてしまう人もいるのではないかと思います。

【事務局】 基金として繰り入れる自治体もあります。また、選択届出結果を受けて、増額を認めているのはたしか1自治体で、他は減額のみです。ただ、支援金希望額を上回る市民の選択があった団体に対しては、これだけ市民の想いが届きましたというお話をさせていただき、フォローだけはさせていただいています。

【中川会長】 だから、予算額に余裕があるので、増やすというような話ができるかどうかですね。

【事務局】 そのときに、2分の1の補助なので、支援額が上がると、その分、収入を充てないといけなくなり、ほとんど団体が事業費を徴収していないので、結局自分で段取りしないといけなくなります。届出率と補助率というのは、団体が事業経費を考えるときの大きなものになっていると思います。

【仲川副会長】 今おっしゃってるのは、市民からの選択を増やしたいの、登録団体を増やしたいのか、どちらでしょうか。

【事務局】 どちらもです。

【仲川副会長】 上田委員、県の地域貢献の登録団体も、そんなに増えないですね。

【上田委員】 そうですね。登録しているけれども、見返りがやっぱり少ないです。5万円以上集まらないと使えないというのもありますので、3,000円、5,000円をもらっていらっしゃる団体もありますが、5万円まで集まらないと使えないと。

【仲川副会長】 ならNPOセンターも登録はさせてもらいましたが、アプライしようという段階で、書類を作らないといけないとか、何かいろいろとってしまいます。

【事務局】 今年度運用を進める上で感じていることですが、申請段階においてヒアリングをし、審査会で質問があったことに対してこの場でお答えをしていますが、実績報告が上がってくると、事前に確認したことが白紙になっていることが見受けられました。募集要項をきっちり確認されているのは、申請のときだけで、実際に事業実施のときには、それが抜けてしまっていると見受けられる事例もありました。団体のみなさんと制度の目的を共有し、事業を実施していただくにはどうすればよいか、事務局としてできることは何か、悩んでおります。

【谷野委員】 例えば結果の公表で、市民に向けて、「ありがとうございました、こういう事業ができました」とか、選択した市民が「こんなことをしたんだな」とすぐ分かるようなものがあれば、もっと支援する人とのつながりができるかなと思います。

【上田委員】 奈良県でも、サポート基金では報告会をしており、そのときは寄附者も来ていただき、寄附者にも報告を聞いてもらえるというような場を設けたり、報告冊子を作っています。媒体を使うのと、実際その場で空気を感じてもらおうというのが大事なのかなと思います。

【事務局】 そういう場が要するという団体からのニーズもあるのでしょうか。

【上田委員】 逆にしなければいけないみたいな感覚を持っておられる団体も多いと思います。それが負担になっているというのもあるかと思いますが、助成を受けて事業を実施したからには、それは義務としてやってくださいと、それをすることによって、自分たちの活動のPRにもつながると思います。

【仲川副会長】 谷野委員がおっしゃったように、何か一言メッセージを張られるとか、たくさんの市民が来られる際、この制度が役に立ったという、そういう優しい言葉がすごく皆を動かすみたいなので、そういうのもあればいいのかなと思います。

【中田委員】 事業に参加していなくて、選択届出した人は、実績報告書を見ればある程度わかるかもしれないが、結果が見えないので、メッセージ的なものがあればいいかもしれないです。

【事務局】 検討してみたいと思います。

— 了 —